

第3学年 総合的な学習の時間（人権学習） 学習構想案

指導者 菊池市立菊池北中学校 教諭 緒方 晃市

1 単元名 ハンセン病問題学習

2 単元の目標

- ・誤った国の政策によって、ハンセン病患者の人々が長い間多くの偏見や差別に苦しんできたことと、その背景には、私たちの無知や無関心があるということを知り、ハンセン病に関しての正しい知識を理解できる。（知識および技能）
- ・ハンセン病問題に関わる事象や情報から課題を発見し、差別の仕組みに気付くとともに、差別を見抜く力を養い、それらを伝え合うことができる。（思考・判断・表現）
- ・ハンセン病問題について、現地学習や人権劇の発表を通して、自他の人権を大切にするために、自主的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元について

(1) 教材観

ハンセン病問題は、国策によって1907年に「癩予防二関スル件」、1931年「癩予防法」という法律を作り、1996年に廃止になった。隔離政策、断種、人工中絶など、約100年にわたる人権侵害が横行していた。ハンセン病回復者及び、家族の人権を奪い、人生をどう生きるのか、選択する自由を奪われた。正しい知識や理解、他者に思いをはせる気持ちの不足などが原因である。法律は廃止され、裁判により、約100年を経てようやくハンセン病回復者が国策の犠牲者だったことが明らかになった。「ハンセン病はうつる病気」「隔離すれば問題は解決する」という偏見や差別が根強く残っている。

本題材を通して、現在も残っているハンセン病問題を学習することで、何の根拠もない不合理なこと、人を排除することは差別であることに気付かせることができると考える。そして、生徒たちの中にある偏見や差別など自分たちの暮らしや心と重ねて向き合わせる。部落差別問題を始め、自分たちの暮らしの中にあるいじめや差別に気付くことのできる適切な題材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級は39名のクラスで、特別支援学級在籍の生徒が2名授業に参加している。生徒は落ち着いた態度で授業に参加しており、どの学習に対しても意欲的に取り組むことができる。本単元について、事前に、人権に対しての意識調査を行った結果、人権学習についての意識は高く、すべての生徒が大切だと思っている。しかし、ハンセン病問題については、ほとんどの生徒が知らないということがわかった。詳細は、以下のとおりである。（35名回答）

1. あなたは人権学習が大切だと思いますか？

とても大切 15人 大切 20人 あまり大切ではない 0人 大切ではない 0人

2. あなたはハンセン病について知っていますか？

よく知っている 0人 知っている 3人 少し知っている 2人 まったく知らない 30人

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、人類の人口の推移についての資料を提示し、人口減少の原因について考えさせる。人口が減った時代に隠された原因を調べることにより、戦争や感染症によって人口の増減があったことに気付かせる。

次に、感染症の歴史について調べ、記録が残っている13世紀に流行したハンセン病や14世紀流行のペストなど、何百年も前から感染症が存在し、人々と関わりがあったことについて気づかせる。また、ハンセン病が日本に入ってきた初期の時代について学習し、感染者の生き方について関心を持たせていく。

日本が行った、ハンセン病患者に対する偏見や差別について学ぶために、教材（熊本の心「異国の地で生涯をささぐ」ハンナ・リデルさんの活動）を使った学習や、国立療養所菊池恵楓園への現地学習、学習成果発表会での人権劇「あん」の発表を通して、自他の人権を尊重し自ら課題を解決する、実践行動のできる生徒を育成する。

さらには、新たな人類の人権課題である新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見、SDGsのターゲットに定められている「人や国の不平等をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」への取組など、他の人権課題と関連させることで、人権に関する認識を深め、これからの実践行動につなげていけるようにする。

(4) ESD との関連

- 本学習で働かせる ESD の視点
 - 相互性・・・人類は長い歴史の中で、感染症や戦争を乗り越え現在があるということ。また、今後もこれを乗り越えて人々は生きていかなければならない可能性がある。
 - 公平性・・・正しい知識や理解、他者に思いをはせる気持ちの不足が無ければ、すべての人が幸せにくらすことができない。
 - 連携生・・・差別や偏見をしないだけではなく、それらを無くしていこうと行動する人が増えなければいけないこと。

- 本学習で育てたい ESD の資質・能力
 - 「クリティカルシンキング」
 - 人権問題について考える中で、自分の身の回りの出来事や日常生活の言動を見つめ直す。
 - 「コミュニケーション力」
 - 見た目で人を判断ではなく、多様性を尊重できる態度を大切にできるようにする。
 - 「協同的問題解決」
 - 人権劇を通して、自他を尊重し問題に対して自分にできることはないか考え、協力して課題に取り組もうとする。

- 本学習で変容を促す ESD の価値観
 - 「世代間の公正」
 - これまで人類が戦ってきた感染症に対して理解をするとともに、感染症に適切に対処できるように、感染症を巡る人権や自己管理の大切さに気づかせる。
 - 「世代内の公正」
 - いじめや差別に苦しむ人たちの側に立ち、問題と一緒に行動できるようになる。
 - 人権・文化を尊重する。
 - 基本的人権を尊重し、すべての人が安心して暮らせるように行動できるようになる。

- 達成が期待される SDG s
 - 3 すべての人に健康と福祉を
 - 10 人や国の不平等をなくそう

4 単元の評価規準

(ア) 知識および技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①ハンセン病について正しく理解するとともに、国策のもとに差別政策（差別のしくみ）が取られ、ハンセン病患者が長い間苦しめられてきたことを理解している。 ②調べ学習をとおして学んだ知識を用いて、それらを関連付けながら日常の相手や場面に適切に活用している。 ③ハンセン病問題を通して、自分の生活との関係を探求することによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	①ハンセン病問題について、何をどのように調べるか見通しをもって活動計画を立てている。 ②ハンセン病問題について、その仕組みや特徴についての情報を、幅広く効率的に収集している。 ③ハンセン病問題から見えてきた差別から、日常生活に結びつけて判断することができる。 ④ハンセン病問題について、結論に対する根拠を明らかにして、自分の考えを主張することができる。	①ハンセン病問題について、伝えたいことを明確にし、新聞を作成している。 ②人権学習をとおして、異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしている。 ③ハンセン病問題について学んだことを、他学年や地域の人に発信しようとしている。

5 単元の指導計画

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 人類の人口推移グラフをもとに、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20世紀になり急激に人口が増えている、今後も増加していくことが予想されている。 ・ヨーロッパでペストが流行ったときに、急激に人口が減少している。 ・歴史上の戦争や感染症によって、人類が大量死している。 	<p>○人口の推移について考えさせ、今後も増え続ける予想もあるが、歴史の中で人口が減った大きな出来事について着目させることで、原因に関心を持たせる。また、原因の一つに戦争や感染症によって、人類が大量に死んでいることに気付かせる</p>	<p>(ウ) ② 主体的に学習に取り組む態度</p>
<p>2 感染症の歴史について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録が残っているものは、13世紀流行のハンセン病、14世紀流行のペスト。 ・日本で流行したのは400年後。 ・感染症が慢性していった原因として、人類の行動範囲が広がったことが原因。 <p>3 ハンセン病が日本で流行したときの実態を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隔離政策、断種、人工中絶など、約100年にわたる人権侵害が横行していた。 ・家族の絆を奪い、人生をどう生きるのか、選択する自由を奪われたハンセン病回復者たち。 	<p>○感染症の歴史は想像以上に古いことに着目させ、人間はウイルスや細菌と戦ってきたことに興味を持たせながら、調べ学習を充実させワークシートにまとめさせる。</p> <p>○人権問題の歴史や、部落問題学習で学んできたことと戦争や感染症問題とのつながりについて改めて考えさせるようにする。</p> <p>○ハンセン病問題は、身近な問題であり、学習することの重要性に気付けるように、近年まで行われていた裁判や差別事象に触れながら意識を持たせる。</p>	<p>(イ) ① 思考・判断・表現</p> <p>(ア) ① 知識および技能</p> <p>(ア) ② 知識および技能</p>
<p>4 熊本の心「異国の地で生涯をささぐ」ハンナ・リデルさんの活動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放置された患者に手を差し伸べ、日本のハンセン病の歴史を動かした人。 ・宣教師の仕事を辞めてまで、日本のハンセン病患者と生涯を共にした生き方。 <p>5 国立療養所恵楓園への現地学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別や偏見によって、いろいろな人が大変な思いをした。 ・療養所生活の厳しさや、死んでも出ることができなかった。 <p>6 人権劇の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果発表会に向け「あん」の人権劇を作成する。 	<p>○念願の夢であった宣教師の仕事を辞めてまで、ハンセン病患者へ生涯をささげたリデルさんの思いを考える。</p> <p>○見返りを求めず行動に移す経験を振りかえることで、今後の人生に生かせるようにする。</p> <p>○資料館の見学を通して、見聞を広げワークシートにまとめていく。</p> <p>○これまで学習してきたことと、今回の見学で学んだことが深まるように、説明を加えながら見学をする。</p> <p>○ハンセン病に限らず、様々な人権問題は、人々の間違った知識が差別や人権について本当のことを知らないために起こってしまうことに気付かせる。人権劇を通して、真実を知ることの大切さや自ら学ぶことの重要性に気付けるようにする。</p>	<p>(イ) ③ 思考・判断・表現</p> <p>(イ) ② 思考・判断・表現</p> <p>(ウ) ① ③主体的に学習に取り組む態度</p>
<p>7 人権問題と出会ったときに、どのように行動していけば良いのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見。 ・SDGsのターゲットに定められている「人や国の不平等をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」への取り組み。 ・日本国内にいまだにある差別問題を知る。 	<p>○これまで学習してきた人権学習から、これから新たに出会う人権問題との遭遇に対しても、真実を知ろうとする意識が大切になってくることを押さえる。</p> <p>○差別する側に立たず、差別を無くしていく側の人間になるためには、これからも人権意識を高くもち、学習していくことの重要性に気づかせる。</p>	<p>(ア) ③ 知識および技能</p> <p>(イ) ④ 思考・判断・表現</p>